

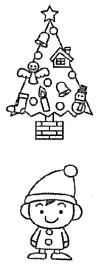


鳥取こども学園 学園だより

第 32 号
2012年12月1日

○発行
鳥取市立川町5丁目417番地
鳥取こども学園後援会
電話 (0857) 22-4206
<http://www.tottorikodmogakuen.or.jp/>
○振込口座
郵便振替 01490-9-9106
題字 尾崎悌之助

メリークリスマス



鳥取こども学園希望館 館長 西井 啓 二

今年もまた、クリスマスを迎えました。
イエス様の誕生を子ども達と共に祝いし
たいと思います。

館長に就任して八か月が経ち、やっと風景の中に溶け込んできた感じがしています。
館長室にいると窓から子ども達の姿が見えます。お昼には、館長室に面している食堂で通所の子ども達と一緒に昼食をいただくこともあります。ある子は渡り廊下から「おじちゃん、そこに閉じ込められているのかあ?」と声をかけてくださいました。お昼ご飯で中学生の女の子に「館長はへらへらしている。」と言われて「えっ!」と聞き返すと「フレンドリーっていう意味!」とのことだそうです。

館長室に時々、子ども達が訪ねてくれます。小さな子は応接テーブルの上にあるキャンデーバスケットに目が行きます。最初は「アメを見てもいいかあ?」という子もいました。「見るだけでなくて『アメをください』って言えばいいよ」というと行儀良く「アメをください」と頼んでくださいます。「へっ!」という私の返事を待つ

てどのアメにするかという大事な作業に入ります。人気は超すっぱいしモン飴ですが、迷うところを見ているだけで私の気持ちはわくわくして「ありがとつ」とお礼を言つて立ち去って行く姿はとても美しく感じます。この子ども達も慣れてくると疾風のよう訪れて「館長、アメちょうだい!」「ありがとつ」で疾風の様に去って行くたくましさも見えてきました。お礼を言うときもあるし、言わないときもあります。ホームの職員さん達は「ちゃんとお礼をいうのだよ」と驕をしますが、「まあいいじゃないか」、一日の全部が教育的・指導的、どの職員も判で押したように同じ場面で同じ驕をするというのも、ちょいとヘンじゃないかなと思うようになりました。

子ども達は最も自由な存在です。自由だからこそ子どもの時代を美しく生きることが出来るのではないのでしょうか。それを施設だからといって、枠の中で子どもをの形を外から創り上げる



クリスマスに完成予定の鳥取みどり園新園舎

ことは難しいことです。子どもの外側にある環境や職員の態度も重要ですが、私たちが目指しているのは、子ども達一人一人が自分自身の中にある成長の力を発見しそれを発揮してくださることです。施設を出てから様々な選択を求められます。その都度、自分自身に最も良い選択を判断できることが自由です。「自分探し」という言葉がありますが、変化して行く自分のスタートを培うのが子どもの仕事なのだと思います。

昨年、厚生労働省から「社会的養護の課題と将来像」が発表され、子どもの施設の改革が始まりました。その初年度に、しかも全国のトップランナーを自負できる鳥取こども学園希望館の館長に就任したことはとても名誉なことであり、同時に責任の重大さを感じています。「社会的養護の課題と将来像」は、子ども達と共に次の時代を創り上げてきた鳥取こども学園のステップの一段階に過ぎません。まだまだ、先は長く厳しい歩みではありますが、次の時代を創る子ども達と共にあることはとても素晴らしいことです。
子ども達と皆様と私たちが共に力を合わせ「子ども達の時代」を価値ある時代に出来るようよろしくお願ひします。

法人本部

常務理事

藤野 興 一 記

一、「社会的養護の課題と将来像」以降の制度改革を絵にかいた餅にしないために

① 平成二十二年七月に、厚生労働省から出された「社会的養護の課題と将来像」「平成二十四年度予算」など、一連の「改革」は、戦後遅々として動かなかった社会的養護を要保護児童の「収容保護」から「養育、家庭的養護」の推進へ向けて大きく舵を切るものとした。

② この改革は、職員配置基準や施設整備基準の抜本的改善の課題を積み残したままのスタートとなり、新たに改築した施設でさえ「人員配置が難しい」と、小規模化に踏み切れずにいるのが実状。政策誘導的な施策にもかかわらず、「笛吹けど踊らず」状態にあると言えぬ。

③ 「生活単位を小規模化すれば、子どもたちは今まで押さえられたものを出して施設は荒れる。慎重にすべきだ」と言っているプレキをかける者もいる。

施設で子どもを預かっている者として、児童養護施設だけでも三万人の子どもたちと一万四千人の職員が野戦病院状態で呻吟している現状を見過ごせない。「課題と将来像」を突破口として前進したいと切に願う。

④ 昨年四月から里親支援機関連事業を受

託し、今年から里親支援専門相談員の配置を受けた。児童家庭支援センター三人、里親支援機関一・五人、里親支援専門相談員二人、計六・五人のソーシャルワーカーと三人の家庭支援専門相談員、三人の職員を配置した一時保護・シヨートステイ、情短通所部門、診療所等の体制は、地域児童福祉の拠点としての機能を飛躍的に強化するものとなった。

⑤ 我が園の実践は、かくして、「課題と将来像」の実践モデルとして、パイオニア的役割を担うこととなった。

二、更なるソフト面、ハード面の充実のために、後援会・財政基盤確立が急務。

⑥ 鳥取みどり園乳児部改築事業（総事業費一億三千七百六万二千三百三十円、四千七百七十万円借入）。希望館教育棟増築工事（総事業費三千二百八十万六千二百円、法人負担千五百四十一万円）、竹中工務店、十月三日着工。・鳥取こども学園乳児部増築事業（総事業費二千六百万五千三百五十円、法人負担千七百九十万円）竹中工務店、十一月十四日着工。・五月認可のはまむら作業所（「なんじゃもんじゃ」と命名）の事業展開。・ブルーブウエアの導入。・県教委、人権局からのいじめ電話相談事業受託。等ハード面、ソフト面での事業が目白押しとなっている。

⑦ 更なるご支援をお願いしたい。

児童養護施設

鳥取こども学園

朝、晩と冷え込むようになり、木の葉も色づき冬の訪れを感じます。学園の子どもたちも、夏休み、秋休みを終え、冬に近づき身体も心も、春よりまた少し成長を見せています。そんな子どもたちに、今年思い出に残っている事や、頑張った事を聞いてみました。

『陸上大会のことについて』

私は今年、市の陸上大会と県の陸上大会に出ました。出た競技は、一〇〇メートル走、四×一〇〇メートルリレーです。一〇〇メートル走は市で九位で、ギリギリ県大会に行きました。練習ではクラウチングスタートの練習をがんばりました。一〇〇メートルのスタートはより速く出られるようにがんばりました。それと、腕のふりなどは私は手がグーになってしまっていたけどちょっと開くように気を付けました。

四×一〇〇メートルリレーは五人いて、その中の一人が補欠です。その人も入れてほぼ毎日がんばって練習しました。特に難しかったのは、バトンのもらい方です。私は四走者で、三走者の人となかなかバトン渡しが上手にならなくて困っていました。でも、歩数を数えてみ

たりしたら上手に渡るようになりました。そして、県の陸上で五位になりました。でも、一〇〇メートル走は入賞でできなかったので残念でした。でも、どっちもがんばったので良かったと思います。

小六 M・N

『楽しいホーム行事』

ホーム行事でさかい港のきたろうロードとひるぜん高原センターに行きました。さかい港の方では、きたろうのどろろをみました。そして、スタンブラーもしました。いろんなようかいがいて楽しかったです。高原センターでは、いろいろなりのものにのりました。その中で一番こわかったのは、バイキングというアトラクションとおぼけやしきです。とちゅうでおぼけがでてきて「キヤー」とみんなでにげてしまいました。こわかったけど楽しかったです。

小四 F・M

鳥取こども学園では、「食事作り」を行っており、普段は、炊事（調理員）さんの作って下さった美味しいご飯をそれぞれのホームで食べますが、誕生日やお祝い事、行事ごとの日など、ホーム内で決めた日に「食事作り」を行います。ホーム職員が子どもとメニューを決めたりしながら、一からホームで作ります。いつもにはない、作っている最中のいい

香りで、子どもたちも興味津々です。手
伝ったり、味見したり、出来上がった後
の食べっぷりも素敵です！そんな夕食作
りのメニューを少し紹介します☆

つくしホーム

- ・オムライス ・春雨スープ
- ・春巻き ・サラダ
- ・ケーキ

感想：春巻き美味しかった！また食べた
い！

おむらいすがおいしかった！
ケーキがおいしかったです！

こすもすホーム

- ・ぶつかけうどん ・おにぎり
- ・からあげ ・三食アイス

感想：からあげと、うどんと、おにぎり
をとってもたべましたおいしく
たです。

おにぎりの中に「はちみつつめぼ
し」が入っていてすごくおいし
かった！！

ふじホーム

- ・たらこパスタ ・トマトパスタ
- ・コンソメスープ ・シーザーサラダ
- ・大根サラダ ・ガリックパケット
- ・アイス

感想：たらこスパゲッティーがおいし
かった！

本格的パスタに大満足でした。

ひまわりホーム

- ・ケーキ寿司 ・豚汁
- ・からあげ ・かきあげ
- ・照り焼きチキン ・冷しゃぶサラダ
- ・生春巻き ・きんぴらごぼう
- ・卵焼き ・フライドポテト

感想：豪華だった！

から揚げが美味しかった。

ケーキ寿司はケーキかと思ったけ
どケーキじゃなかった！

ケーキ寿司が、かわいかった。

食事作りの日は、子どもも職員も、い
つも以上に会話も弾み笑顔で溢れていま
す。職員の感想の中には、「パーティー
の雰囲気やごちそうがあれば、野菜もモ
リモリ食べます。やはり、食事作りの効
果は大きいです」とありました。これか
ら、食育のひとつとして「食事作り」
に取り組んでいきたいです。

新任職員の自己紹介

児童指導員 松本 卓也

今年の八月から鳥取こども学園で保育
士として働くことになりました。日々の
めまぐるしい生活に反省の連続ですが、
子どもたちと一緒に過ごす中で、少しづ
つ成長していけるように頑張っていこう
と思います。

支援員 吉田 博子

今年の六月からハウスキーパーとし
て、働かせて頂いております。吉田です。
職員の方々、元気な子ども達の笑顔とた
くさんの「ありがとう」の中、働かせて
頂き、微力ですがやりがいを感じており
ます。まだまだ気力、体力には自信があ
ります。笑顔と感謝の気持ちを忘れず一
生懸命頑張りたいと思います。どうぞよ
ろしくお願いいたします。

支援員 武田 恵子

六月よりこちらでお世話になっており
ます武田恵子です。忙しい職員の方々の
お役に立ちたいという気持ちで、やって
おりますが、逆にいつも親切にしてい
だき感謝しております。これからも変わ
らぬ気持ちで励んでまいりますので、ど
うぞよろしくお願い致します。



乳児院

鳥取こども学園乳児部

院長 田中佳代子

乳児院を鳥取こども学園に併設して七
年目となりました。十五名定員で「どん
ぐり」「かりん」「くるみ」の三ホームに
五名ずつ生活しています。一ホームが一
ルーム使用となっており、寝た子と起き
ている子が同じ部屋で過ごす不便さがあ
ります。又、家庭的な養育を目指すこと
によって、レンジや炊飯器など次々と物
が増えてゆき、部屋がどんどん狭くなっ
て、こども達の遊び空間が狭くなったこ
とが課題となっていました。

この度、一ホーム分を本体施設に続け
て外だし増築し、一ホーム移動させ、本
体の三ホーム分を二ホームで使用でき
るよう改造します。

国・県の補助金を八百十一万円頂いて
総事業費二千六百万五千三百五十円を増
設費用として、十二月より工事にかかり
ます。移転増築となるホームの運営や乳
児部職員全体の連携方法などを検討して
移動に備えたいと思います。

今後も、より良い支援を求めて頑張っ
てゆきますのでよろしくお願い致します。

総括看護師 竹森 香理

開設七年目を迎えた乳児部に四月より仲間入りさせていただきました。

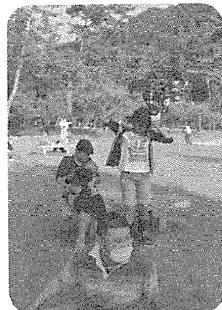
乳児部の子どもたちは、毎日、朝から元氣いっぱい全力投球で思いの丈をぶつけています。そして、その思いにしっかりと寄り添えるようにスタッフのみなさんがいます。

朝起きてから夜寝るまで…。少しでも多くの時間を子どもたちとゆったりと過ごせるようにと切り盛りされてますが現実にはなかなか厳しいようです。そんな折、先日、姫路セントラルパークへ三ホーム合同遠足に救護係として同行させていただきました。この企画は現場スタッフより湧き上がった企画で、三歳児さんをお願いつくり外に連れ出し、絵本ではない本物の動物や新幹線を見たり、触れさせてあげたいとの願いが叶ったの行事です。子どもたちのほとんどが初めての遠出と言つこともあり心配した点は多々ありましたが無事に終えることが出来ホッとしました。生活を共にする大人と日常場面では経験することの出来ない体験を共有し、思い出のひとつとして語れることは育ちの中でも大きな支えになると思います。子どもも大人も安全で安心出来る環境の中、日々の細やかな出来事や行事を共に体験し大切にすることで、いのちの源をたくさん蓄えていけると信じています。そして、今まで以

上に皆さんにも乳児部パワーをお裾分けできたらいなと思っています。どうぞ、これからもよろしくお願いいたします。



芋掘りしたよ



養護のお姉ちゃん達と遊んでいます



そうめん流し楽しかった!



いっしょにおつきいなあ

情短施設

鳥取子ども学園希望館

新任職員の自己紹介

昨年の九月から調理員として働いている市川静です。一年経って仕事にもようやく慣れてきました。ホームでの食事招待や夕食作りを楽しみにしているのですが、これからもよろしく願っています。

調理員 市川 静

今年の四月から調理員として働かせてもらっています。大量の調理に最初は戸惑いましたが、次第にホームの子どものことを考えながら作れるようになりました。おいしいものを作って子どもたちが毎日元気に過ごせるようにがんばります!!

調理員 浅野 拓也

六月から支援員として、働かせていただくことになりました。子どもたちが心地よく生活できるよう、頑張りたいと思っています。よろしく願っています。

支援員 橋本 和美

六月より希望館でお世話になってます。夫、息子三人の五人家族です。縁あつての職場で、日々感謝の気持ちを

持つて仕事に従事しています。少しでも皆様のお手伝いが出来るように頑張りますので宜しくお願いします。

支援員 山根みさ子

子どもたちより、文章・絵などを寄せてもらいました。

《入所部門》

◆中学生になって

ぼくは、この春中学生になりました。最初はどきどきしました。でも、そんなぼくを見た担任の先生が、「大丈夫?緊張しなくていいんだよ。」と、優しい言葉をかけてくださいました。その時ぼくはこう思いました。「絶対この先生との関係ができそう。」ぼくは、その担任の先生みたいな優しい大人になりたいです。部活は、弓道部に入りました。色々とおるけど、そこを先輩に教えてもらっています。この弓道部を三年間がんばりたいです。中学校は、小学校よりも人が多いので、友だちを多く作って、友だちと一緒に学芸発表会や運動会をがんばりたいです。

こばとホーム K・T (中二)



◆のぎくホームで生活して

私のがくホームに来てから七年が経ちます。小学生のころはちゃんちゃで、毎日先生達に怒られていました。中学生のころは、友達との関係で色々な失敗もしたし、悩んだ事もあったので、先生達とたくさん話をしたり相談したりしました。今は高校生になって、将来に向けて進路を考えています。のぎくでは一番年上になりました。希望館で学んだことを大切にして、みんなの見本になれるように生活していきたいです。

◆もう、自立…

のがくホーム K・A (高二)
僕は今、高校三年生です。中学二年の

しらゆりム
ホー

時から入所していますが、もう退所の時期です。今まで、嫌な事も沢山あったり、良い事もあったり…結構楽しかったです。これからは、もう自分一人で歩かないと思うと、時々不安になります。先生みたいに家事は出来ないけど、それでも少しずつできるようにしたい。退所したくねえなあ…

わかばホーム M・Y (高二)

《通所部門》

◆リセット

今、こんなに学校が好きな僕ですが登校するのが苦しい時期もありました。僕は、小一の時からぼつぼつと学校を休み始めて不登校になりました。小六の時に先生のすすめで「てくてく」へ通うようになり、その後のぞみ分校で勉強を始めました。最初は誰ともうまく話せませんでした。ある日、僕は隣の席の友だちに勇気を出して話しかけると、優しく笑顔で答えてくれました。そのときのことをよく覚えています。僕は今、分校に来て友だちと笑い、先生方に色々なことを教えてもらえるのがとてもうれしいです。ここでの思い出は今後、困難にぶつかったときに思い出せば僕の力となり、背中を押してくれると思います。僕の周りのみなさん、本当にありがとうございます。

分校 T・K (中三)

教育棟増築工事 着工



鳥取こども学園希望館教育棟は平成十四年に建築され、通所部門（鳥取市立中学校特別支援学級分教室二学級、同市立修立小学校特別支援学級分教室）建物として使用を開始しました。

平成十八年希望館管理部門が本館に移転し、空き事務室を通所室として高校学齢児の通所をスタート。

平成二十一年四月からは東中分教室がのぞみ分校となり、教頭が配置されるなど教員数が倍増されました。

更に平成二十二年には「こころの発達クリニック」開院に伴い教育棟一階事務室に子ども家庭支援センター、希望館を移転。

同年、「一階通所の愛称を「てくてく」と定め、社会と時代のニーズに応じ高校学齢児だけでなく、分校・分教室に通えない小中学生の通所を開始しました。

二階部分の学校教育の充実に伴い、通所児童生徒に加えて入所児が分校学籍の児童生徒となる割合が増えていき、近年は二学級（十五人）だけで対応できなくなっていました。

こうした実情を受け、鳥取市立東中学校のぞみ分校（二階）に学級を一つ増設すること、手狭になった「てくてく」の集団療法室を拡充すること、子ども家庭支援センターの事務室を拡充すること、カウンセリングルームを増設することを目的に、十一月から増築に着工しました。翌年三月末の完成を目指しています。



保育所 鳥取みどり園

園長 山本 恵子

木々の葉が色つき、クルクルと葉っぱが舞い落ちます。赤や黄色の落葉が折り重なり地面を覆う風景に思わず足を止め、自然界の移り変わりの早さを身に染みております。月日の経つのは早いもので、三歳未満児棟改築の為幼子が法人施設の仮園舎で過ごすことになって九ヶ月。寒かった冬を越して春、猛暑の夏をのり越えて秋を迎えました。その間子ども達が健康で安心・安全の場で元気に過ごせるようにと、職員一同が一丸となって対応してきました。行事においても場所がないから止めるのではなく、子どもが喜び笑顔が見られることをしようと考えてしました。それが出来たのも、保護者の皆様のご理解とご協力が得られたからだと思います。又、工事期間中周辺の地域の方や保護者の皆様には、ご不便・ご迷惑をおかけしたと思いますが、大きな事故もなく過ごせたことは、神様に見守られ皆様方のご支援、ご協力を頂けたからだと思ひますと、感謝の念で一杯です。

さて、園児を初め保護者の皆様、地域の方々が期待されております新園舎の完成引き渡しが十五日です。園舎に一歩足を踏み入れますと、木の香と温もりが全身を包み、温かさを肌で感じるとる事の出来る園舎に、子ども達は十七日から入っ

て生活をします。新しい豊かな環境の中で、子ども達が安心して生活し、心身共に健やかな成長・発達をして育ち合う場となるように心も新たに努めて参りたいと思ひています。

今月二十二日にクリスマス祝会を新ホールで催しますが今年は、いつもの年以上に「喜びと感謝と願いの祈り」をもって、心静かに迎えたいと思ひます。

「変わっていつって おもっていい!!」

保育士 濱本 友紀

いちようの葉もきれいに染まり、日ごとに秋が深まってきました。

今年度は、一歳児を担当させて頂いているんですが、子どもたちは、毎日びつくりする程、元気いっぱいです。最近では、お友だち同士で会話を楽しんだり、わらべうたやふれあいあそびも、一緒に楽しんでいるところです。また、外に出ると、どんぐりを見つければ「せんせい、みて。」と小さな手を広げて、嬉しそうに見せてくれます。自然の変化はもちろん、園舎の建て替え工事の変化にも気づき、だんだんと完成していく新園舎を楽しみにしている子どもたちです。

まだ、工事



の仮囲いがあつた頃、園庭に出ると、真つ先に滑り台に登り、クレールン車を見ては「うわー、うこいた。すこいな。」と工事車両に大喜びでした。そして仮囲いがとれ、新園舎を見て「あたらしいみどりえん、つくってるんだなあ。」と工事車両だけでなく園舎にも目がいくようになり、大工さんに「こんにちわ。」何しとる?」と笑顔で話しかける子どもたちです。

あと少しで完成する様子を子どもたちと共に見守り、そこで生活することへの期待を膨らませ、新園舎での生活がより良いものになっていくようにしたいと思います。

鳥取みどり園行事

- | | |
|-----|---------------------------|
| 4・2 | 進級式 |
| 4 | 第62回入園式 |
| 27 | 春の親子遠足(こども園) |
| 23 | 保護者会総会 |
| 24 | 健康診断(全園児) |
| 25 | 歯牙健診 |
| 25 | 参観日(保育参観・座談会) |
| 7・6 | 七夕まつり |
| 12 | バス・汽車遠足(3歳以上児) |
| 20 | 個別懇談週間 |
| 26 | 卒園生の集い |
| 28 | 納涼祭(保護者会主催) |
| 9・7 | 上棟式 |
| 14 | 風紋館デイサービス「敬老のつどい」に出演(5歳児) |



- | | |
|------|-------------------|
| 17 | 修立地区敬老会に出演(5歳児) |
| 10・6 | 運動会(修立小学校校庭にて) |
| 9 | 健康診断(全園児) |
| 11 | 交通安全教室(保護者会主催) |
| 25 | 健康診断(全園児) |
| 27 | 修立地区公民館祭(5歳児出演) |
| 30 | ミスタードーナツ店来園 |
| 11・4 | 鳥取市「児童文化祭」(5歳児) |
| 8 | 園外保育(3歳以上児) |
| 21 | 感謝祭 |
| 28 | 6歳臼歯健康講座(5歳児) |
| 12 | 新園舎内覧会 |
| 16 | 新園舎引越し仕事会(保護者会主催) |
| 22 | クリスマス祝会 |
| 1 | 竣工式 |
| 19 | 参観日 |
| 22 | 祖父母との伝承遊び |
| 5 | 交通安全教室(保護者会主催) |
| 14 | シルエット劇場(5歳児) |
| 15 | 平成25年度入所児説明会・身体検査 |
| 18 | 作品展 |
| 3・1 | ひなまつり |
| 8 | 進級説明会(2歳児) |
| 14 | お別れ会 |
| 23 | 第62回卒園式 |
- ★「避難訓練」「お楽しみ会」「交通安全指導」「身体測定」「クリーンデー」「安全指導」を毎月1回行っています。
- ★わくわく子育て支援センターでは、毎月1回「親子教室」と「育児講座」を行っています。



診療所

「こころの発達クリニック」

『物語としての真実』を

一緒に読み直す

こころの発達クリニック 川口 孝一

ザ・フオーク・クルセダーズ（戦争を知らない子供たち）『あの素晴しい愛をもつ一度』等」を「存知でしょうか。そのグループのメンバーであり、作詞家でもある北山修氏（医学生の時グループを結成）は、実は著名な精神分析医です。医師に成られてからも『言葉』に「こだわり、臨床や研究を続けて来られました。一昨年度年退職されてからも、「アカデミックシアター（学術劇場）」（学問＋エンターテインメント）等の活動を精力的に行っておられます。その北山氏が、真実には『歴史としての真実』と『物語としての真実』があり、精神科以外の科では『歴史としての真実』すなわち「何歳頃になど病気になるか」（既往歴）が重要だが、精神科領域では『物語としての真実』すなわち「過去を今自分自身から生きているためには重要なのだ」と話されています。

私は精神分析家ではありませんが、

日々の臨床の中で、精神科医として過去を扱うことは少なくありません。ある自傷行為の激しかった十九歳の女の子が、初診時「自分は親から虐待されてきた。子どもの頃の良い思い出は何もない」と語っておられました。治療経過で退行（こども返り）し、辛い過去の思い出を吐き出しつつ育ち直りする中で、たまたま育児日記を発見する等の偶然も味方し（臨床現場では『偶然』に救われることはよくあります）、次第に「良かった思い出」も思い出されて来たと語られるようになりまし。そして自分自身の『過去と和解』（親もあの時はあれで仕方なかったんだ」と過去を諦め受け入れ）し再び親御さんと暮らせるようになられました。このように『物語としての真実』は変わり得ます。『こころの傷つき』は簡単に癒えるものではありませんが、少しでも抱えて生きやすいように、物語を読み直す（再び語る）ことで、辛い体験を真綿に包んで再び抱える作業（痛みを伴う作業になることも多いかもしれませんが）のお手伝いをしていけたらと思います。



児童家庭支援センター

子ども家庭支援センター「希望館」

◆子ども家庭支援センター「希望館」では、発達障害についての相談が多く、また学校からも、対応についての問い合わせや訪問しての相談、実際紹介を受けて相談に来られる保護者の方が増えたことが今年の傾向としてあげられます。

これまで、様々な方と関わらせていただいています。最近、ある方とのやり取りの中で、昔に読んだ漫画の言葉がふと思い出されることがありました。『良心（やさしさ）は体が成長するのと同じで、自分のなかで育てていくもの。だから、人によって良心は違う。疑うのは誰でもできる。だからあなたは信じる子になりなさい。』確か、このようなセリフでした。これは母親が、子どもに言ったセリフですが、これは逆の立場でも言えることだと感じています。そして、それは支援する側の人間にも言えることだ

なと思いました。

この夏、支援センターでは節電につなげる努力の一つとして、グリーンカーテン（ゴーヤ）を作りました。夏、真っ盛りに植えたので、暑さが成長しないのではないかと心配しましたが、それでもぐんぐん育ち、たくさん実がなりまし

た。お隣の「てくてく」でも子どもたちと一緒に野菜を育て、りっぱな野菜ができました。

良心（やさしさ）を育てるのは、野菜が育つのと似ているなと思います。どんな形であっても、思いがこもっているのを感じたら、とてもおいしく感じます。そして、人の優しさを感じます。放置しておけば、病気になるっていることにも気付かないでしょう。だからといって、水や肥料を多くやりすぎると、根が枯れてしまい、もともと野菜が育つ能力を奪うこともあります。『ほどほど』がいいそうです。

しかし、この『ほどほど』が今は難しい時代だと、何かの記事で読みました。世の中、様々なサービスが普及し、色んな情報を受けられますが、「後れをとる」ことにストレスをかかえているような気がします。「うちの子は成長が周りより遅いのではないかと」「このような相談が増えたように思います。しかし、「ゆっくり」でも野菜も、人も成長できると信じています。その過程に、「一緒にさせていただけたらな」と思います。

◆来所相談 平日 午前九時～午後六時
◆電話相談 平日 午前九時～午後十二時
（平日 午前0時以降・土日祝日も緊急対応はします）

里親支援とっとり

里親委託等推進員 吉田 信彦

里親支援機関事業「里親支援とっとり」は、里親委託促進、養育・専門里親研修、普及啓発、里親相互交流などの事業を行っています。

今年度より、米子聖園ベビーホーム鳥取こども学園（養護施設・乳児部）に里親支援専門相談員が配置され、当所と協働して里親支援に取り組んでいます。里親委託の促進には、里親と、支援する様々な機関とのパートナーシップが必要不可欠です。私達の機関名や職名には「支援」という言葉が入っていますが、一方的に支え助けるという考えはありません。里親さんと、時には議論を交わし、時には行事を共に運営し、時には、楽しく語らい親睦を深めることで、お互いをパートナーとして認められるようになるのだと思っています。

つい先日、次の里親会行事の計画を練りながら「さて飲み会はいつしようか」という話になりました。どの里親さんも、養育論もさることながら、皆何かしらの分野に造詣が深く、蘊蓄を聞きながら酒を酌み交わすときはとても楽しい時間です。

里親支援の体制整備は、システムとしてはまだまだこれからですが、人のつながりは着実に深まってきています。

自立援助ホーム

鳥取フレンズ

寮長 山中 友子

最近、療育手帳や精神保健福祉手帳を入所中に取得する傾向があります。彼らが生きていく為に、いろいろな社会資源が必要だからです。また、雇用状況は依然厳しく、十八歳未満の就労は、職種・時間等限られ、高卒ではないことや資格も持たず、ただ自立を強いられる状況になってしまった若者にとっては、生計を立てる収入を得ることは、とても難しいことです。実際生活保護で補ってもらい生計を立てている人、市の雇用促進事業を活用させていただいて、何とか生活している人もいます。

ホームに来て、初めて就労する人にとっては、まず仕事を探し、面接を受け、合否が決まるまでが難関です。何とか、そこを越えて就労すると、継続することが次の課題として待っていて、自分のペースをつくっても次から次へというような試練が待っています。そんな中で一日一日何かしら楽しいこと、わくわく

することを見つけて生活しています。

退所していった人達も、社会に揉まれながら懸命に生きています。OBの声を聞くと、自立援助ホームで生活している子たちは、ここにいる間に何をする必要があるのかと考えさせられます。これまで、その場その場で対応してきたつもりが、ただ依存させることになっていないか？と不安に思い、反省することもあります。同じ過ちを繰り返しているOBに対して、結局、私自身も同じことを返してきている。これでいいのか？とも思います。答えとか結果とか求めることではないけれど、ただ、一人一人が自分らしく生きてくれることを望むばかりです。

終わりにになりましたが、関係機関の方々、また、多くの理解、支援をしてくださる方々のおかげで今があることに感謝いたします。

自立援助ホーム

倉吉スマイル

寮長 田村 崇

子どもたちの最善の利益をと日々心に留めながら倉吉スマイルでの生活を送っています。子どもたちはどんな場所で生活しようが、安全に安心して暮らしてい

けることが大前提です。しかし、これは我々大人側の一方的な思いだけでは成し遂げることができません。そこに必要なのは共に生活を送る、そして穏やかに日常の生活を送るということだと思います。

今の子どもたちはとても大きなプレッシャーの中で窮屈に生きているのではないかと最近私は思っています。こどもそれぞれの本質は昔と何ら変わっていないとは思いますが、しかし彼ら彼女らを取り巻く環境は明らかに大きく変化しています。先人が、そして我々が体験しえない別の生きざらさがあるのだと思います。明確にここがいけないと断定できませんが、少なくともそのひとつであると感じるのは、我々大人たちの姿は子どもたちにとって明るく穏やかな未来が先にあると感じさせていないということです。テレビのニュースを観ていても、どうしても説明のできない大人たちの筋の通らない事件や出来事が流れてきます。とても悔しいのともどかしさでいっぱいになります。

倉吉スマイルに縁あって辿り着くまでに、我々が想像しえない体験をしてきた子どもたちと今いちばん身近で生活しているのは我々です。彼ら彼女らが受けてきた傷を完全に消し去ることはできないかもしれません。しかし、少なくともこ

れから先には明るい未来があるんだということを伝えていくことはできると思います。いや我々がしていかなければいけない大切なことだと思います。そのため我々は日頃から優しさと思いやりを持って助け合いながら、そして肩肘を張らず楽しそくに生活している姿を見せていかなければいけないと強く感じた、そんな一年でした。

今倉古スマイルはとても大変な時期にあります。基本的な事を思い返し、子どもたちの笑顔の絶えない毎日を心がけていきたいと思っています。今後とも支援よろしくお願いいたします。

地域若者サポートステーション事業 とっとり若者 サポートステーション

総括コーディネーター 内藤 直人

今年、公表された「鳥取県青少年育成意識調査」の中で、ひきこもり状態にある青少年（十九～二十九歳）が千六百人に推計されるという結果が報告されました。また別の調査では、県内に、ニートの青少年が三千二百人いることが推計されています。当所の支援対象となる方がこれだけ多くいることを改めて知り、これからどんな支援を行えるのか考えてい

かなければならないと感じています。

「鳥取県青少年育成意識調査」の中では人間関係、就労について悩んでいる青少年が多くいることが報告されています。一方で公共相談機関の存在があまり知られておらず、相談をする方は殆どいないということが報告されています。

こうした観点から、当たり前のことですが、当所の存在を知っていただくとともに、来所してみたいという環境や支援をいかに組み立てていくのかということが重要になってきます。特に場所については、県東部以外の遠方に在住の方の相談にどう対応するのが課題です。

中西部については、週一回程度定期的に出張相談会を設けて対応をしているところであり、西部には十二月に、ハローワーク米子の移転に伴って新たに、サポートの相談スペースがイオン米子駅前店に開設されます。場所の点では一つ改善されましたが、今後は魅力的な支援の身を検討していきたいと考えています。

鳥取養育研究所設立

昭和六十一年当時、藤野興一主任児童指導員（現常務理事・鳥取こども学園長）を中心に教育、医療、司法、行政等の関

係者有志が集い、鳥取養育研究会（第一）を発足。定例会を開き、子どもに関する学習や事例研究を積み重ね、鳥取県内の児童福祉の在り方について検討を行いました。その成果は、子どもに関わる職員の資質向上や子どもための施設改革、関連諸機関の連携として結実しました。しかし、その後の児童問題の拡大

の中、不登校やいじめ、学級崩壊などの教育問題、育児不安や虐待などの家庭問題、非行や少年犯罪と少年法の改定、乳幼児精神医学や心理・発達論の在り方をめぐる議論など次々と発生する事態に各施設各機関とも対応に追われ研究会の活動は停止状態となっていました。

平成元年、「子どもの権利条約」が国連で採択され、平成六年に我が国の国会で批准されたことを契機に、全国的に児童福祉の発展、特に「生存」「保護」「発達」「参加」の権利を保障する、二十一世紀の新しい養育理論および児童福祉の創造と構築への社会的ニーズが高まってきました。そうした中、鳥取県内各関係機関の若手職員等が結集し、数年の準備期間を経て平成十七年に第二次鳥取養育研究会として四十七名の会員で活動を再開しました。

再開当初から会の目的を鳥取養育研究所の設立と位置付け、鳥取大学教授を中

心とした児童福祉研究、公開講演会等の

研修会や研究発表大会の定例化を図り、平成二十二年二月に開催された鳥取県福祉研究学会第三回研究発表大会に於いて最高賞である鳥取県知事賞を受賞。この間に約百名の研究者を集める会に成長した鳥取養育研究会の活動が高く評価されました。昨年からは「子どもと施設の権利擁護全国ワークショップ」を開催し、全国から鳥取県内の児童福祉の取り組みに高い関心を寄せていただいています。

こうした実績を基に、本年度より社会福祉法人鳥取こども学園の公益事業として鳥取養育研究所がスタートいたしました。これまでの会での研究と活動を引き継ぎながら、法人格を得て益々社会の要請に応えるべく邁進して参ります。ご理解と協力、ご支援を戴きますよう、よろしくお願い致します。

【研究所構成】

所長

奥野隆一（仏教大学）

副所長

田中恵子（倉吉大学）

運営委員長

田村 崇（倉吉スマイル）

副運営委員長

米田怜美（子ども家庭支援センター

「希望館」

内藤直人（とっとり若者サポートステーション）

事務局長

藤野謙一（鳥取こども学園希望館）

登録研究所員

約九十名

はまむら作業所

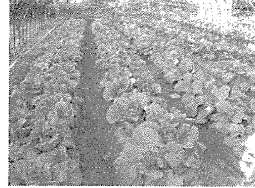
月日が経つのは早いもので、事業所が開設し半年が経過致しました。地域の皆さま、また、関係者の皆さまの愛情とご協力により、はまむら作業所が日々の活動ができております事、この文章を通じてお礼申し上げます。本当にありがとうございます。

本年は、例年にも増して、かなりの猛暑でした。自然の厳しさ相手、慣れない農作業という事ではありましたが、スタッフ利用者さん共に体調に気を付けながら怪我する事なく、夏野菜作りや収穫、販売、肥料作りや土作り、草刈、また、農業の受託作業等に参加し、あつという間に半年が経っておりまして。そんな中ではありましたが、スタッフ利用者さん、関係者の皆さまと「はまむら」の地で和気あいあいと活動できた事、無事に活動できている事がなにより一番だと

感じております。今は、葉ものを中心とした冬野菜作りをしておりますが、はまむら作業所は農業一年生、農業されている諸先輩方の作物に肩を並べるにはもう少し時間と経験が必要です。

今後の事業所についてですが、作った作物を販売等し、利用者さんの工賃に還元する工夫をしていく事、就労メニューを工夫していく事、運営面の課題を解決していく事など、クリアすべき課題が沢山あります。スタッフ一同日々具体化させながら支援に努めていきたいと考えております。

このような状況ではありますが、利用者さんと共に、地域の皆さまと共に働く、働ける素晴らしさ、豊かな自然の中で活動できる楽しさを大切に、今後毎日歩んでいけたらと考えております。どうぞ今後とも変わらぬご指導を賜りますようお願い申し上げます。

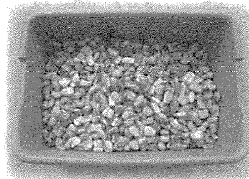
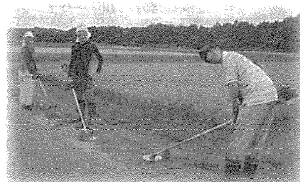


退所児童等アフターケア事業

ひだまり

〈就労支援〉

五月〜九月までひだまりの駐車場にて、らっきょうの根切り、浜村にて田んぼの草刈り、草取り作業をしました。ほとんどの方が初めての体験でしたが、すぐに手も慣れて無事作業が終了しました。

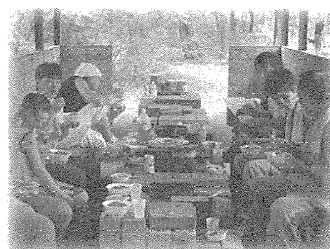
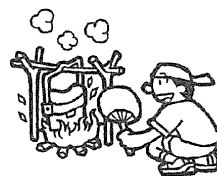


〈食事会〉

毎月食事会をしています。七月は鳥取砂丘の柳茶屋にて飯こう炊飯をしました。

〈施設訪問〉

十月十四日 光徳子ども学園のバザーに、ひだまりは焼き鳥を出店しました。



当学園事業へのご寄付 後援会へのご加入に 感謝申し上げます。

前回報告以降、現在まで、ご寄付いただいた方々、
後援会に賛同（会費納入）していただいた方々は、
下記のとおりです。

心より感謝し、ご報告申し上げます。

寄 付 者 (2012.5 ~ 11.30)

敬省略

氏 名	氏 名	氏 名	氏 名
菜の花総合法律事務所 藤本 奎吾 岸 田 奎子 榎 村 素子 田 本 直子 米森 澤村 伊都子 木 内 米哲 山 澤村 直人 松 岡 登貴 巻 田 菊子 鳥 山 玲子 スカイクリニック 片山正見 田 中 儀衛 林 村 敬二 西 野 多利 久 谷 多喜 大 杉 恭英 杉 村 伸一 梅 里 正子 平 野 正子 鳥取商事株式会社 加納浩 山 田 健朗 岩 本 純子 柴 本 和仁 亀 本 良一 田 中 佳代 川 端 勇次 大 雲 蔵益 上 院 盆子 増 村 優子 林 田 千尋 奥 野 義雄 山 本 隆一 江 谷 孝明 (株)プレマスペース 大家祐子 日海通信工業(株)鳥取支店 沖 正 沖 かね子 田 中 嘉鶴子 栗 本 悦子 竹 下 努子 大 倉 紀子 医療法人きむら耳鼻咽喉科医院 木村寛 (株)岩 田 兼 商店 才 木 寿郎 安 田 俊秀 西 め ぐみ 村 建 次	田 村 明子 松 本 正彦 橋 取 国府更生保護女性会 安 望 良栄 興 望 掛学 中 尾 文子 奥 根 徳一 山 根 房知 小 金 廣 川 上 枝 義 仲 登 千 石 眞知 西 尾 茂美 (株)家電のきの下 敏明 川 口 明子 (株)前 田 悦子 小 竹 寛子 中 本 久美 鳥取いなばライオネスクラブ 鳥取こども学園支援バザー 川口映子 天 徳 寺 (株)海 老 シ 二 原 美 賀 信 保 統 川 康 中 啓 伊 吹 慶 米 谷 紀 増 松 恵 松 下 光 穴 植 雅 原 樋 喜 樋 水 千 松 橋 隆 齋 足 明 野 山 静 澤 小 孝 川 口 正	土 江 浜 代 パ ル ス 電 工 (有) 福 嶋 巖 磯 田 子 三 木 康二 鳥 取 大 学 学 生 有 志 会 朝 倉 通 憲 谷 尾 裕夫 福 問 悦一 岸 田 剛正 西 村 正男 橋 本 外科 医院 橋 本 英宣 上 島 武子 田 中 和 峰 柏 女 石 義 忠 下 石 桂 代 九 鬼 谷 周 一 伊 本 五 十 鈴 浜 原 土 筆 叶 太田法律事務所 太田正志 タニグチ・ヘアサロン 谷口義明 梅 澤 潤 一 高 橋 昌 文 鳥 取 白 乳 販 (株) 自然を守るみどりの会 高野晃一 竹 本 薫子 百 村 佐智 蔵 本 美知 武 安 泰 雄 美和子 松 原 千恵子 入 江 一 枝 鳥 取 教 会 教 会 学 校 根 雨 4 区 納 税 組 合 草 野 雅 昭 三 木 眼科 三 木 統 夫 渡 辺 隆 夫 砂 川 晋 治 眞理 正 林 督 邦 東 田 章 義 悦 松 田 章 一 橋 高 草 あ す な 高 永 陽 柴 田 尚 谷 垣 由 高 槻 成 市 川 益 木 村 和子	渡 邊 哲 次 秋 崎 り 谷 口 尚 子 医療法人社団 萩原 樹 松 本 文 昭 池 成 孝 昶 田 中 耕 自 山 下 弘 実 福 島 庸 二 大同端子製造株式会社 大坂正治 山 本 博 岡 田 武 (医)たなか小児科医院 鳥取信用金庫 鳥取東支店 西 田 淳 中 尾 勝彦 福 寿 須 美 江・みどり 山 本 智 丈 ま ご こ ろ 庵 鳥取鶏卵株式会社 小野寺祐 広 谷 笑 子 医療法人社団 乾医院 理事長 乾俊彦 (株)さんれいフーズ鳥取支店 小 竹 多 喜 雄 藤 内 正 樹 貞 光 由 紀 江 懸 樋 義 樹 ダイヤモンド電機(株) 鳥取南更生保護女性会 会長 小宮山富美子 (株)千代エンジニアリング 錬成館進学塾 大根 瑞樹 濱 田 久 美 松 岡 義 人 鳥 取 市 仏 教 会 (株)中 井 脩 医療法人さと田園クリニック 理事長 太田匡彦 鳥 取 医 療 器 (株) キ シ モ ト テ ル コ キ 岡 村 俊 作 福 永 裕 子 濱 崎 英 治 市 谷 経 哉 成 岸 田 洋 子 鳥 取 県 共 同 募 金 会 アルコバレノ 島 村 ジ ョ ー (有)造園土木植清園 大塚 巖 (有)因幡安田ひまわり保険

氏 名	氏 名	氏 名	氏 名
湯 村 正 仁	井 上 仁 ・ 恭 子	大 源 真 美	鳥取東更生保護女性会 代表者原田幸代
小 川 泰 弘	吉 田 由 美 子	西村照子税理事務所 西村照子	鳥取教会・愛真幼稚園合同バザー
広 徳 寺 修 養	中 島 陽 一	盛 田 和 子	須 崎 俊 雄
河 田 瑛 子	大 北 美 津 子	浄土宗本願寺 谷本直哉	石 井 衛 治
白 井 道 子	岸 本 順 子	竹 田 義 男 ・ 江 海 子	網 谷 憲 治
建 部 恵 子	大 石 博 子	丸 谷 菊 枝	杉 森 忠 篤
井 手 添 敦	端 戸 朋 子	あいおいニッセイ同和損保(株)MS&AD ゆにぞんスマイルクラブ	
(株) 三 栄	河 口 欣 微 子	上 野	原 田 快 子
望 月 彰	上 嶋 純 子	矢 久 間 一 子	齊 藤 光 實 氏
岡垣七宝研究所 岡垣幸得	前 田 豊	富 山 佳 代	他 無 名
高草人権福祉センター：奥田昭美・坂口萌香・坂根政代・前田敏晴・前田三枝子・坂口恭子・西垣一美・西垣和枝・松本ひろみ			

物 品 寄 付 者 (2012.5～11)

敬省略

氏 名	氏 名	氏 名	氏 名
パ ン ド ラ の 箱	鳥 取 教 会	U F O 扇 町 店	前 場 大 輔
倉 光 真 由 美	手 作 り 工 房 関 谷	ライオネスクラブ	ス リ ー バ ー 鳥 取 店
U F O 秋 里 店	吉 田 道 子	フードバンク鳥取みもとの会	奥 田
鳥 取 教 会 シ オ ン 会	海 藤 ひ ろ み	西 垣 尚 美	立 川 町 4 丁 目 町 内 会
川 口 真 由 美	U F O 安 長 店	市 谷 年 弘	(株) ヤ マ ネ 機 材 子
ぱ に 一 に	安 長 家 具	鳥 取 廣 信 青 果	奥 山 紀 代 子
宇 田 川 隆 司	米 谷 食 品 セ ン タ ー	松 永 陽 明	西 尾 琉 璃 子
高 野 晃 一	図 書 出 版 樹 林 舎	大 隣 寺	大 雲 院 地 蔵 盆 子 供 夜 店
伊 吹 啓 子	晴 れ 着 の 丸 昌 横 浜 店	福 田 光 明	川 上 和 昭
村 田	大 和 建 設 株 式 会 社	藤 原 ま り 子	中 井 氏
鳥 取 更 生 保 護 女 性 会	進 学 塾 ビ ー ・ セ ミ ナ ー ル 山 口 英 晃 ・ 舞	日本画グループ鳥 白岡文江	無 名

～ 鳥取砂丘 除草ボランティア ～

私たち鳥取こども学園の児童・職員は、年間を通して様々なボランティアの方々より、多くのご厚意をいただいています。「自分たちもボランティアで、地域に貢献したい!」そんな私たちの熱意が集まり、今年度より学園発信でボランティア活動を実施しました。まず第一回目は、鳥取砂丘事務局の協力の下『鳥取砂丘除草活動』を実施。悪天候にも関わらず、活動直前になりピタッと雨が止む強運のメンバーたち。中学生から幼児までたくさん草を取り、ボランティア活動は大成功!!



会費・寄付金は下記へお願いします

鳥取こども学園後援会事務局：〒680-0061 鳥取市立川町5-417 鳥取こども学園内

☎(0857)22-4206・21-9551 FAX 23-0242

降込口座名義：社会福祉法人鳥取こども学園 理事長 尾崎淑子

振込口座：郵便振替 01490-9-9106 山陰合同銀行鳥取営業部 普通 3422812

鳥取銀行本店 普通 7645611

お 願 い

この「学園だより」は、当法人にご理解、ご協力いただいている皆さまに、施設での出来事、様子等を報告する意味で発行しています。

同封しています寄付金・会費の振込み用紙は、あくまでも皆さまの便宜を考慮のことですので、ご理解いただけますようお願い致します。

今後とも、当法人を温かく見守って下さいますよう、心よりお願い申し上げます。